



ほつとするね
緑の府中

指導室だより

第 73 号

編集・発行 府中市教育委員会教育部指導室
〒183-8703 府中市宮西町2-24
電話 042-335-4063

平成21年度 「府中の教育を語る会」

環境教育の充実

府中市教育委員会主催による
第5回「府中の教育を語る会」
が、11月7日(土)に生涯学習
センターで開催された。

東京都は、11月の第一土曜日
を「東京都教育の日」とし、都
民の教育への関心を高め、教育
に関する取り組みを都民全体で
推進し、その充実と発展を目指
している。

府中市においても「府中市学
校教育プラン21」に基づき、府
中市教育の日として教育に対す
る市民の関心を高め、保護者、
地域、学校、教育委員会が共に
考える機会として、「府中の教育
を語る会」を実施している。

今年度は「環境教育の充実」
をテーマに、府中第五小学校、
新町小学校、南町小学校の各代
表児童と府中第二中学校の生徒
会役員による取組事例発表及び
パネル討論が行われた。

また、会場ロビーには、市立
小・中学校33校の環境教育の実
践事例がパネルにより紹介され、
市民、保護者等が環境教育を考
え、理解する機会となった。

◆パネル討論の概要

○テーマ「環境教育の充実」

・コーディネーター

○東京農工大学大学院教授

・パネリスト
朝岡 幸彦先生

○府中市立府中第五小学校

田中梨紗乃さん

○府中市立府中第二中学校

渡邊ひかりさん

○市立小中学校PTA連合会長

林 宏至 氏

○校長会代表(住吉小学校校長)

伊藤 顕 氏



パネル討論「環境教育の充実」

※身近な環境を考える

○日頃、パネリストが環境問題
について考えていること

・ 樹木伐採にかかわる疑問

・ ゴミ問題解決のための行動

・ 地球規模の温暖化現象の進行

・ 環境エコプロジェクトの取組

○環境についての実践上の課題

・ 節電を行動に移すこと

・ 生徒一人一人のエコの素晴ら
しさの理解と主体的な行動

・ 環境に優しい社会を構築する
ためのアイデアや働きかけ

○環境副読本「さっちゃん」と
「話」の編集と活用について

・ 昭和54年3月に初版を発行し、
以後改訂を重ね、小学校四年
生が活用している

・ 平成22年2月2日からのダ
ストボックス廃止に対応するた
め、現在大改訂中である

○府中市の環境教育の可能性

・ 環境にかかわるルールを大人
が率先して子どもに伝える

・ 生徒全員で良い環境を作る

・ 身の回りの小さな体験から環
境を意識する子どもを育てる

○講評 朝岡 幸彦先生

環境教育推進上のポイント

① 楽しく続ける(自分の頭で考
え工夫しながら行動すること)

② 身近なものや事から世界を理
解しようとしてほしい

③ 意見の異なる人とも誠実に対
話をし、少しずつ努力していく

◆府中第五小学校の実践

府中第五小学校では、今年の
夏から校庭が芝生化され、私た
ちの遊びや環境に対する意識が
少しずつ変わってきている。

5月に校長先生から校庭の芝
生化の話があった。6月の中旬
からフェンスができ、校庭で遊
ぶことや体育・クラブができな
くなり、「不便だな」と感じた。
一学期の終業式に「二学期始
業式には、芝生が完成していま
す」との話があり、「早く思いっ
切り校庭で遊びたい」と期待を
膨らませていた。

二学期になって校庭を見た私
たちは、「わあすこい」「公園
みたい」「緑だ」と歓声を上
げた。以前の校庭と比べ、今は
砂ぼこりが立つことも、排水溝
に砂や土が詰まることもなく
なった。芝生は環境に優しいん
だな、ということが分かった。

芝生の校庭では、靴を並べて
ライン代わりにする子、芝生の
上でごろごろ転がって楽しんで
いる子など、工夫して遊ぶ子が
増えている。芝生は、大事に扱
わないとダメになってしまうこ
ともあるそうだ。私たちは、こ
のすばらしい五小の芝生を大切
にし、二酸化炭素を減らし、ヒ
トアイランド現象を少なくして
いくためにも、身の回りの自然
をしっかりと守っていききたい。

◆新町小学校の実践

○エコ活動の取り組み

新町小学校のエコ活動は、10年前のヤギの飼育(四年生が世話)活動から始まっている。

○「CO2削減月間」の活動

クラス毎にどんなことに取り組みか話し合い実践した。

◇一年生〜三年生

家の人と一緒に取り組んだ。

①テレビをつけっぱなしにしない

②テレビを観る時間を短くする

③観ないときはコンセントを抜く

④水道をこまめに止める

◇四年生

ゴーヤの栽培とヤギの飼育

◇五年生

「我が家の環境大臣」チェックシートを使って、①電気や水の

使い方②ゴミの量や出し方③

買い物の工夫について調べ、発表し合った。

◇六年生

総合の時間に環境保全について話し合い、①ゴミ削減②電気

節約③植物④エアコン⑤雨水利用の5グループに分かれて取り

組み、学校全体に呼びかけたり

ポスターに掲示したりして、みんなの関心を高めた。

新町小学校が全校で取り組んだ「CO2削減推進月間」では、

約600kgのCO2削減とその

成果が認められ、都教育委員会

から環境優良校の表彰を受けた。

◆南町小学校の実践

○学校(全校)の主な取組

・ゴミ減量大作戦

・資源回収

・エコキャップ回収運動

・緑の募金活動

○四年生の取組発表

「ゴーヤの栽培から身の回りの環境を考える」

1「ゴーヤの観察」から気付いたこと

・つるが右にいたり左にいたりして、いろいろな方向にのびていた。

・葉が大きくなり全体にのびていた。

・2階まで高く成長していたのでびっくりした。

・ゴーヤは「緑のカーテン」とよばれていて、これで冷房やせん風機をきかせなくてもすくくなるし、地球温暖化の原因の二酸化炭素をすてくれる。

2そこから思ったことや考えたこと

・CO2を減らすために草木をふやしたらいいと思った。

・CO2が出ないように物を燃やすのを少なくすること。

3自分が出来ること

・庭などに植物を植える。

・ゴミを減らしてゴミを燃やすのを少なくする。

・節電をする。

・今ある自然を大切にす。

◆府中第二中学校の実践

生徒会の活動は、「エコキャップ運動」である。ペットボトルのキャップを集め、それを業者に買い取ってもらう。そのお金を府中市社会福祉協議会にそのまま寄附し、府中市内の児童生徒ボランティア普及事業費として使っていた。このことで、府中市のボランティア活性化に貢献するということである。

各委員会による活動

○自治委員会

エコキャップ運動の呼びかけを行っている。

○精美委員会

ゴミ箱の管理を徹底し、ゴミの分別を促している。

○図書委員会

クーラーの温度を原則として28度に設定している。

○保健給食委員会

給食時に残飯を減らすことを促している。

○放送委員会

放送器具のスイッチをこまめに消し、さらに放送でエコについて毎日呼びかけを行っている。

○ボランティア委員会

生徒会と連携してエコキャップ運動に取り組んでいる。

○生徒会

生徒会主催で生徒全員が「エコ活動を通してどう感じたか」ということをテーマに作文を書

いた。この取り組みが、全校のエコへの関心や意識を高めるきっかけになればよいと考えている。

パネルで紹介

市立小・中学校の

環境教育の実践例

当日は、取組事例発表校の他に会場ロビーで、市立小中学校の環境教育の実践例も紹介された。各校の具体的な活動では、

① ゴミ減量②節電③エコバツグ④エコキャップ⑤緑のカーテン(ゴーヤの栽培)⑥地域清掃等が行われている。

また、環境への取組は、環境活動のほかに年間指導計画による「総合的な学習の時間」での「環境学習」も行われている。

中学校第三学年の実践例では、体験学習旅行・体験学習旅行事後学習を行っている。体験学習旅行で取り組む、田植え体験・農村生活体験などさまざまな体験活動を通して課題を設定し、その解決を考える学習活動を展開している。日本の抱える多くの環境問題について自分たちの視点で解決策を提言できるように取り組んでいる。

展示を通して、市立小中学校33校の環境教育への取組が、PTA、家庭、地域、関係機関等との連携により着実な成果を挙げていることを保護者、市民に知らせることができた。同時に、よりよい環境を創り出すための意識の高揚を図ることもできた。



多摩川の自然観察

小学生科学教室事務局

指導員 松浦 泰之



さーみんな 集まって

岩石班では、○岩石の名前と種類を調べた。岩石集めをした。チャート、砂岩、礫岩、石灰岩、泥岩、閃緑岩、凝灰岩があった。今日勉強したこととは、夏休みの自由研究に使えるかも知れません。○すぐりになる石（泥岩）があること、チョークになる石（滑石岩）があること。主に石は7つに分かれていることを知った。水晶探しがおもしろかった。○ぼくは、7種類の石を全部見つけたのでうれしかった。

次ぎは、もうちょっときれいな川に行って、違う昆虫を捕ってみたいですね。今日、見つけた水生昆虫以外の水生昆虫を見てみたい。○下流の水生昆虫と上流の水生昆虫がどう違うか見た。意外とスジエビがいっぱいた。ヤゴもいた。ふつうのヤゴとちがうヤゴがいた。アメリカザリガニもいた。また、水生昆虫をつかまえた。

野鳥班では、○最初イワツバメの巣やその説明を聞いた。その次、上流に行っているいろんな鳥の声や姿を見た。イワツバメの特徴は、腹が白くて尾羽が広がっていることです。今日一日楽しかったです。○鳥の種類や鳴き声、特徴を今日勉強しました。多摩川には今日見たよりも、もっとたくさん鳥が棲んでいると知りました。○双眼鏡や望遠鏡で鳥を見て、リストに記録した。○カラスやその外の鳥の羽は油があり、水をはじくため雨の中でも飛ぶことができる。

おぼえる事ができました。今日、本当にたくさん見られてよかったです。
多摩川の自然観察のアンケートでは「きょうの勉強は楽しかったですか」の質問に対して、
(ア) 楽しかった 90・7%。
(イ) 普通だった 9・3%。
(ウ) あまり楽しくなかった 0・0%と言う結果が出た。
児童は楽しく学んでくれたと感じている。
これも小学生科学教室を支えて下さっている、教育委員会をはじめ、府中野鳥の会、東京農工大学、都立多摩動物公園、府中郷土の森、校長会と教職員、水辺の楽校、教育研究所等多くの方々のおかげと感謝している。

植物班の観察風景

当日、中河原公園に集まった五・六年生児童、講師、指導の先生方、総勢60名あまり。
多摩川の自然観察は、毎年、関戸橋付近で行っている。多摩川での学習は、岩石班、植物班、野鳥班、陸生昆虫班、水生昆虫班の五班の編成。各班は、講師の先生、指導補助の先生、各班10名程度の児童が一組になって活動する。
多摩川の自然観察を行う前はいつもその準備の日を一日設けている。その日は、植物・岩石・水生昆虫・陸生昆虫・野鳥、についての話を各担当の先生が行い、その話から、児童が入りたい班を決める。各班では、児童が①何を調べたいか。そのため②何を調べていくかを決める。自分たちで用意する物、科学教

室で用意する物等を話し合っている。現地多摩川での自然観察に臨んでいる。児童は学習を終わるといつも、ほんの短い5分ぐらいではあるが、アンケートと感想を書く。
今年の多摩川の自然観察学習では、次のように書いている。
植物班では、○先生に根粒バクテリアのことを教わった。○茎を調べた。ツルには左回り、右回りがあるのだとわかった。
○どんな植物があるのか先生に聞いて紙に名前を書いて、名前や形を覚えた。いろんな形の植物があっておもしろかったです。
○私は、花の種類を調べた。多摩川で咲いている植物を取りました。辛いヤナギタデを噛んだ。○多摩川で色々な発見が出来てとてもよかったです。

水生昆虫班では、○川の中に入って、虫を捕まえて観察した。

○私は、陸生昆虫班だったので虫をいっぱい取り、どこにどの虫がいるかを調べました。私は、あまり虫を取ったことがなかったけれど、今日、いっぱい調べてみる楽しかったです。また、虫取りをしたい。



「飛び出せ十中生」

～事前事後の指導を充実させた職場体験～

府中市立府中第十中学校
副校長 桐川 勲



園児と共に遊ぶ幼稚園での仕事

☆本校の概要と

キャリア教育全体計画

(1)本校の概要

静かな住宅街で旧来から地元にいる家庭と新興住宅に住む家庭が混在している落ち着いた地域であり、学校の教育活動に対しても概ね理解し、協力的な保護者が多い。8クラスの小規模校なので、友人関係が密接である。生徒は明るく素直であり、挨拶、掃除などきちんとできる。課題は家庭学習が定着していない生徒が見られることである。

(2)本校キャリア教育の特色
本校教育目標の一つとなっており「なにごとにも進んで実践

べを行った。作成したワークシートは多目的室に展示し、生徒全員が情報を共有し保護者にも見学していただいた。

②自分の保護者に働くことの意味、大切さをインタビューし、結果をパネルにして発表した。

二年時・①4月当初より体験したい職業を探し、5月の半ばまでに事業所の検討・連絡・決定を行う。

②学年全体で「職場体験」に対する心構え、礼儀の指導を行う。

する」を基盤として、キャリア教育全体計画を作成し、5日間の職場体験の位置づけを自己探求「ふれあい」とし、以下の2項目に重点を置いた。

①職場体験で得た経験を他の生徒と共有する発表を通して、働くことの意義を確認し、自分の将来の職業に対する関心をより深める。

②様々な体験を通して、自分のより身近な進路である上級学校についての理解を広げる。

☆職場体験（事前、当日、事後）指導の充実

(1)事前指導

一年時・①身近な人の職業調

(3)事後指導
個人テーマ及び課題について、24ブースでポスターセッションによる発表学習を行った。新型コロナウイルス流行の影響のため準備不足との不安があったが、生徒たちは目を輝かせながら1回2分間のセッションを行った。とても楽しそうに自作した小道具を巧みに利用し、全員が追体験できる素晴らしいものであった。

文化総合発表会では一年時からの取り組みを系統的に発表し、またポスターセッションで上位に入った4グループは、職場体験の内容を具体的にきめ細かく発表していた。一人一人のアイデアが形となり、「ふれあい」を「夢」につなげる総合学習の成果を披露する彼らの姿は、どつとつても、まさに「飛び出せ十中生」であった。

工夫がなされていた。それらは、生徒一人一人が働くことに対する価値観を形成し、その意義を確認するのに大きな役割を果たしたと思う。

一年での「命」の学習を「ふれあい」につなげた生徒たちだからこそ、三年生での進路選択が「夢」の実現へとつながる総合学習のまとめとして深まりを持つことが期待できるのである。

最後に本校の職場体験を支えているのは、各事業所の全面的な協力と、何度も体験先と連絡をとり、職場まで出向き粘り強く交渉を重ねた学年の教職員の熱意にほかならない。

今後も今回の成果を忘れずに、より一層キャリア教育を充実させていきたい。

③職場体験での個人テーマ及び課題の設定、体験事業所の仕事内容、質問事項、交通経路、持ち物など事前訪問で打ち合わせするための準備をする。生徒の自己紹介書などの準備をする。生徒自身が事前打ち合わせの連絡を行う。

(2)当日

体験中に各職場に職員が訪問すると、生徒たちは脇目もふらずに体を動かしていた。

どの職場でも「本当に素直な生徒さんですね」「よく挨拶をしますね」等、たくさんのお褒めの言葉を職場の方から笑顔の中でした。



衛生面に注意を払う食べ物を扱う仕事

単に職場を5日間経験することにとどまらず、学年全体、学校全体の生徒達にそれぞれが体験した内容を追体験できる

わが校の特色ある教育 NO. 40

地域の「人」と「環境」に 恵まれて育つ学校

府中市立府中第五小学校

主任教諭 押見 正人

府中第五小学校のシンボルであるくすの木は登校してくる子どもたちをいつも見守っていてくれる。その大きく開かれた腕のような枝の下に子どもたちは集い、木陰で休んだり、太い幹の周りを元気に走り回ったりしている。大正元年、新校舎の落成を記念して植えられたこのくすの木は、創立136年目の本校の変貌ぶりに目を疑っているだろう。くすの木横にあるプールの改築工事が始まり、また、緑の芝生の校庭に生まれ変わったからである。姿を変えていく



プールへの感謝の気持ちを書き込む子どもたち

のは校内だけではない。今年3月本校西門前にJR南武線の新駅「西府駅」が開業し、隣接する西府文化センターや公園などが整備された。学校を取り巻く地域も大きな変貌を遂げていく今、変わらず大切にしていきたい本校の不易、それは、「人」と「環境」である。

「人」…地域の願いの

詰まったプール

プールの改築に際し、地域の人々の子どものたちに対する深い愛情を思わずにはいられない。その歴史をここに簡単に記しておきたい。昭和37年にプールが完成するまでは他の学校と同様

に、多摩川を水泳の場としていた。しかし水質汚染などのため水泳に適さなくなったため、本校PTAは関戸橋下流の河原を石囲いして特設の「天然プール」を作った。石囲いといってもかなり大規模で、幅20メートル、長さ30メートル、深さは1.2メートルあったということである（府中市教育史 通史編下）。そして、プール開設中は、保護者が交替で現場に詰め、水難防止や衛生指導に当たった。その間にも保護者や地域の方々、建設会社などからの募金や寄付など物心両面から多大な協力をいただき、昭和37年6月に校地内に待望のプールが完成した。五小のプールは地域や保護者の愛情の結晶である。

しかし、昭和52年に作られた小プールとともに老朽化は免れず、あわせて区画整理による校地の一部変更に伴って今回改築に至ったのである。今年9月、子どもたちはプールに対する感謝の気持ちを直接プールに書いた。「プールが大好きだったよ」「ここで25メートル泳げるようになりました」など、名残を惜しむ言葉が多く見られた。子どもたちの思いの温かい言葉で埋められたプールは、晩夏の

日差しをあびて、最後の輝きに包まれていた。

「環境」…芝生の校庭

校庭も緑の芝生に変貌した。子どもたちは芝生の校庭が大好きだ。裸足で駆け回ったり、寝転がったりと、今までの校庭では考えられなかった活動が展開している。実際に子どもたちからも「ふわふわしていて気持ちがいい」「けがをすることが少なくなかったよ」などといった意見が聞かれた。

本校はもともと自然が豊富な環境にある。校内は中庭に様々な樹木があり、虫やカエルだけでなく野鳥などの生き物もたくさん寄ってくる。校外はハケ下に湧水がある。このような恵まれた環境を様々な学習に活用している。これに加えて、校庭の芝生も学習環境となった。例えば三年の理科では、はだしになって「日なたと日かげ」の違いを体感することが容易にできる。また、水が大量に流れても芝生の根がその下の土を守ることも理解できるだろう。理科だけでなく社会科学や環境教育にも活用することができる。

9月早々に、芝生の校庭で大きなショウリョウバッタを見つけた。本校の校庭をすでに自分たちにとって住みやすい環境だと見つけた生き物たち。そんな

生き物とともに、楽しい学習活動を模索していきたい。

このように、本校は恵まれた地域の「人」と「環境」のもと、心身ともに健やかな子どもたちをはぐくんでいる。そんな中、平成20・21年度の府中市教育委員会研究協力校の指定を受けて、「考えを深め表現できる児童の育成」をテーマに国語教育に取り組み、11月にはその成果を内外に発表することができた。

プールが取り壊され校庭が芝生になっても保護者や地域の思いが詰まった学校であることに変わりはない。くすの木は今後も子どもたちの未来を見守り続けてくれることだろう。

青々と茂る芝生



日	曜	研修会・委員会等	会 場	研 修 内 容 等
4	金	体力向上委員会	教 育 セ ン タ ー	研究授業
7	月	生活指導主任会	教 育 セ ン タ ー	全体会、分科会
7	月	第4回就学指導協議会	教 育 セ ン タ ー	検討・協議
8	火	初任者等研修	教 育 セ ン タ ー	授業研究
10	木	教務主任会	教 育 セ ン タ ー	全体会、分科会
11	金	I C T活用推進委員会	府 中 第 四 小 学 校	研究授業
11	金	食教育推進委員会	四 谷 小 学 校	研究授業
14	月	特別支援学級代表者会	教 育 セ ン タ ー	全体会、分科会
15	火	学校図書館推進委員会	教 育 セ ン タ ー	報告書原稿検討等
22	火	小学校英語活動推進委員会	府 中 第 一 小 学 校	研究授業

12月研修会・委員会等予定



教育基本法第九条に「教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならぬ」とある。

この条文に示す「研究」は、主に、子供の学力等の向上のための指導法や教材の開発を課題とする。これに対して「修養」は、教員自身の豊かな人間性の向上を課題とするものである。

この研究と修養の場の一つは、校内研究によるOJTを通じた教員相互の学び合いである。校内研究の中心である授業研究には、教員の資質・能力向上への二つの側面がある。一つは、教材開発や教材解釈、授業展開などの教科等に関する識見が高まるという側面である。もう一つは、計画した授業を実際に行うことで子供への対応力や簡潔に説明する力などの指導技術が向上するという側面である。

校内研究を通して、教職員が

(指導主事 国富 尊)

校内研究におもう

試行錯誤しながら子供たちの学力や体力、豊かな心などの向上を目的に指導計画を立て、授業研究を行うなどして共通の課題解決に取り組むことが、教員としての力量向上に大いに役立っている。

さて、府中市では、今年度10校が府中市教育委員会研究協力校として全国へ向けて校内研究の成果を発表する。これは、市内公立小・中学校の約3割にあたり、他の区市町村に例を見ないほどの割合である。

12月までに行われた5校の研究発表会では、いずれの学校も各教科等における表現やかかわり合いを通して子供たちの人間関係形成能力の向上が成果としてあげられていた。しかし、成果は他にもある。教員の指導力の向上はもちろんのこと、

教職員が一丸となって研究に取り組んだことで、教員自身の人間関係形成能力も含めた豊かな人間性が確実に高まっているはずだ。

校内研究は、「研究」と「修養」の最も着実で、素晴らしい取組であることを改めて感じた。

学びの窓

子どもを犯罪から守るために

地域安全対策課安全係

主査 中田 康太郎

子どもたちが犯罪の被害に巻き込まれる危険性の高い下校時間帯で多い事案が、わいせつ行為・つきまといなどの犯罪につながる声かけである。人通りの少ない住宅街や公園で一人になったときに狙われている。

地域安全を守る方策として、当課では、庁用車に防犯のシンボルである青色回転灯を点灯させながら走行する取り組みを行っている。下校時間帯を中心に巡回し、警備員による通学路及び公園周辺のパトロールも強化している。

また、平日の午後1時30分、防災行政無線で見守り放送を流し、地域の皆様にもご協力をいただいている。散歩や買物、自宅前の掃除など、日常生活の中で気軽に行えるものである。犯罪防止に大きな役割を果たしている。下校時間帯に外に出ていただくよう呼びかけている。子どもたちに関わる大人が多ければ多いほど、安全が保たれる。日本の将来を担う子どもたちを温かく見守り、犯罪や事故の起こらない街を目指し、効果の高い施策を進めていきたい。

あとがき

毎週土曜日のF紙夕刊に連載されている記事を楽しみにしている。科学・芸術・文化・スポーツ等で活躍する人物の母親が登場し、自身の子育てについてシリーズで語る内容である▼その一人を紹介したい。「宇宙飛行士・若田光一」さんの母タカヨさんの「我慢教えた給料日のやりとり」の光景と言葉が心に響く▼「お母さん、今月はちょっと余裕があるから、自分の服でも買ってくれ」「私の洋服はいいから、お父さん、あなたのコートでも買いたくないよ」「じゃ、ちょっと無理して、光一の自転車でも買ってやるか」▼光一は小学2年生まで、幼稚園のときに買った小さな自転車で我慢していたんです。あのとき、光一が跳び上がった姿は、いまでも目に浮かびます▼給料日のやりとりは、ひとつの教育だったと思います。お金のありがたみや、人に感謝する心、働く尊さ、思いやり、我慢を光一に教えたと思うんですよ。子どもは、日々の暮らしのなかから、いろんなことを学びます。まず、親がしっかり、きっちりと、まっとうに暮らす。それにつけると思いますが▼幸福の源は、家族。人の道親のあるべき姿とは。(小澤宏)